

## 出雲市民フォーラム

# 「島根大学病院の最新治療 2024初秋」を開催しました!

総務課企画調査係

2024年9月8日(日)、島根大学医学部臨床小講堂にて、今年度2回目の出雲市民フォーラムを開催しました。今回は外科治療をテーマに、各科の医師が講演を行いました。

はじめに、呼吸器外科の山根正修教授が、肺がんの進行度に応じた治療例と手術方法について説明しました。初期の肺がんは治療が可能であるため、積極的ながん検診の説明をしていました。

次に、肝・胆・膵外科の日高匡章教授が、肝胆膵疾患の概要とその手術方法、さらに肝移植について説明しました。肝胆膵疾患は症状が現れにくいこと、また最近ではアルコールや脂肪肝が原因の肝疾患が増えていることなどが紹介されました。

最後に、産科婦人科の金崎春彦准教授が、帝王切開から骨盤臓器脱まで、幅広い手術内容について動画を交えて紹介しました。婦人科の疾患については、「恥ずかしい」と受診を躊躇する患者さんが多いが、適切な治療を受ければ快適な生活が送れる疾患も多いので、遠慮せずに受診してほしいと話しました。

講演後の質疑応答では、肺がんの増加原因やアルコールと肝疾患の関連、婦人科の検診についてなど、数多くの質問が寄せられました。病院長の補足説明を交えながら各医師が回答し、活発な意見交換が行われました。

今後も当院の取り組みや最新治療に関する情報を、市民フォーラムなどを通じて広く発信して参ります。

### 当日の演題

テーマ 1

#### 肺がんの 最先端治療と ロボット手術

呼吸器外科  
教授

やまね まさおみ  
**山根 正修**



テーマ 2

#### 肝胆膵疾患における 外科手術 ～ロボット手術を含めて～

肝・胆・膵外科  
教授

ひだか まさあき  
**日高 匡章**



テーマ 3

#### 産科婦人科で 扱う疾患と 外科的治療

産科婦人科  
准教授

かなさき はるひこ  
**金崎 春彦**



問い合わせ先 総務課企画調査係 TEL:0853-88-2531



Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

2024年  
10月  
Vol.132

# NEWS



## CONTENTS

表紙:看護部長 川上 利枝(中央)

中表紙

・医学部出身の学長としての地域に対する思い  
・がんに関する市民公開講座を開催しました!

裏表紙

・出雲市民フォーラム  
「島根大学病院の最新治療 2024初秋」を開催しました!



# 医学部出身の 学長としての 地域に対する思い

おおたに ひろき  
島根大学長 大谷 浩

本年4月より島根大学長を拝命いたしました大谷です。1983年に旧島根医科大学解剖学教室に赴任後、2021年に島根大学理事として松江に異動するまで、38年間「医大」で教育・研究や医学部長など運営に携わってきました。解剖学教育では全ての医学生さんの顔と名前を一致させ、篤志献体の会「有終会」などを通じて、県民の皆様にも長くご指導・ご支援をいただきました。島根の豊かな自然、美味しい食べ物と水・お酒、深い歴史と文化、そして何より地域の皆様の温かさのお陰様にて、人生の半分以上の充実した日々をこの地で過ごさせていただきました。

一方で、島根県は少子高齢化、経済縮小などの課題先進地でもあります。島根大学は、自然科学と人文社会科学のバランスの取れた恵まれた構成を持っており、地域を支える幅広い人材の育成と産業振興など地域課題解決へ向けて、その総力を結集する必要があります。医学部・病院は、全ての力の源である人・ヒト・人間を対象とする医学教育・研究、医療を担っており、これを「かすがい」として島根大学の自然科学、人文社会科学の力を集結し、課題解決に資する教育・研究、社会貢献を強力に進めてまいります。

就任後半年が過ぎ、両キャンパスを跨いで全学的に同じ方向を向いて前進する機運が醸成されてきています。皆さまからいただいたご恩をお返しするべく、椎名病院長・理事、石原医学部長、鬼形副学長（地域協創（出雲キャンパス・県西部）担当）、浦野学長特別補佐（医学研究担当）、岩下学長特別補佐（大学魅力化コーディネイト担当）、平野学長特別補佐（出雲キャンパス情報システム管理担当）の全学の任務をお願いした先生方はじめ、医学部・病院と松江キャンパスの先生方・職員の皆様との連携を強化して一致団結し、皆さまの豊かな健康と生活に貢献できるよう、全力で取り組んでまいります。今後とも島根大学へのご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## がんに関する市民公開講座を開催しました！

先端がん治療センター/腫瘍内科 教授 田村 けんじ  
たむら けんじ  
けんじ 田村 研治

2024年9月8日（日）に、ビッグハート出雲にて、がんに関する市民公開講座を開催しました（図）。毎年、出雲市民を対象に開催し、総題を「いっしょに考えましょう がん医療」としております。会場には20名程度の一般参加者がいらっしゃいました。Web同時配信又後日、出雲ケーブルテレビでも配信されますので、多くの出雲市民の方が目にされることと思います。

今年のテーマは「がんゲノム医療」です。3部構成とし、第1部では、当院臨床遺伝・ゲノム医療センターの山本寛斉先生に「がんゲノム医療の現状と課題」、とりわけ「がん遺伝子パネル検査」についてわかりやすく講演していただきました。第2部では、島根県立中央病院乳癌科の橋本幸直先生に「遺伝性乳がん卵巣がんを知ろう!」の題目で、比較的頻度の高い遺伝性疾患の「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC症候群）」についてお話いただきました。第3部では、当院がん患者・家族サポートセンターの今岡佐織相談員と、島根県立中央病院がん相談支援センターの大西美佑紀相談員に「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」として、がん患者さんに関わる社会福祉士・医療ソーシャルワーカーの仕事や、がん患者さんの相談窓口、相談内容、患者会などについてお話いただきました。

会場の参加者は、それぞれメモなどを取りながら、熱心にお聞きになっていました。

会の最後に、参加者からの疑問を質問用紙に記載いただき、発表者にお答えいただく「質問コーナー」を30分程度設けました。質問内容からは、どのような場合に遺伝子検査の対象になるのか、保険適応はあるのか、検査にかかる時間や、検査費用など具体的なものが多く、市民の関心の深さがうかがえるものでした。

現在、2人に1人が「がん」に罹患する時代となり、高齢化が進むにつれ、その割合も増加していくことが予想されます。一方、ロボット手術や「がんゲノム医療」、新世代の放射線治療など、がん治療も進化しています。身近な疾患として、「がん」を取り上げる市民公開講座を今後も継続していきたいと思えます。

問い合わせ先 先端がん治療センター TEL:0853-88-3123



# ご報告



スクールトレーナー活動の一場面

国内初の

## 認定スクールトレーナー<sup>®</sup>が当院に誕生しました

リハビリテーション部	理学療法士	かわもと 川本	こうへい 晃平
	理学療法士	ふくだに 福谷	さやか 早耶香
	療法士長	えぐさ 江草	のりまさ 典政
	教授	まにわ 馬庭	そうきち 壯吉

認定スクールトレーナー<sup>®</sup>制度は、理学療法士が学校において児童生徒等に対して保健指導的な役割を果たし、運動器疾患・障害の予防教育を行うことで、児童生徒等の運動器の健康を推進し、心身の健全な成長と発達を支援することを目的として2024年に制度化されたものです。

当院では本制度の設立に向けて、モデル事業として医学部整形外科教室の内尾祐司教授、門脇俊学内講師のご指導のもと、医師の運動器検診に理学療法士が帯同し、コンディショニング指導を行うことでスポーツ外傷・障害予防を試みる取り組みやその事後措置として、理学療法士による継続的な学校への介入など、全国に先駆けた先進的な取り組みを展開しています。

開始に伴い第1回認定スクールトレーナー<sup>®</sup>養成講習会が開催され、全国から120名（うち都道府県理学療法士会・協会推薦者47名、一般受講者73名）が受講しその後認定試験がはじめて開催され、当部の福谷早耶香理学療法士が推薦され、認定試験に合格しました。

また、制度設計及び講師を担当した川本晃平理学療法士も資格を付与され、島根県から3名、当院から2名の認定スクールトレーナー<sup>®</sup>が誕生しました。

今後も医師、教職員、保護者や部活動指導者等の学校関係者と連携し、「チーム学校」や「コミュニティ・スクール（地域学校協働活動）」の一員として、児童生徒等の運動器の健康増進及び運動器疾患・障害の予防に貢献できるよう努めてまいります。

運動器の健康・日本協会HP  
-「認定スクールトレーナー制度」について-

参考：公益財団法人運動器の健康・日本協会  
「認定スクールトレーナー<sup>®</sup>制度」について (<https://www.bjd-jp.org/trainer>)



問合せ先 リハビリテーション部 TEL : 0853-20-2457



# ご報告



## 鋭い剣気で医療安全も守る！ ～ワークライフバランスのご紹介～

ワークライフバランス支援室長 かわかみ としえ  
川上 利枝

ワークライフバランス支援室では、職種や性別の区別なく全ての職員が働きやすく、キャリアアップができる病院作りをめざして活動しており、ここで働く誰もが、バランスのとれた生活を送ることで「仕事と生活の調和」を図ることが重要であると考え、支援を行っています。

今回は、ワークライフバランスを実践している職員の取組みについてご紹介します。

このたび2024年9月1日（日）に開催された第54回島根県武道振興大会において、当院医療安全管理部の出羽あゆみ副看護師長が女子30歳以上の部で第2位の成績を収めました（写真1・2）。島根県武道振興大会は、柔道、剣道、弓道、相撲、銃剣道、なぎなたなどの日本の伝統的な武道を通じて、県民の認識を高め、心身の健全な発達を促進することを目的とし開催されています。

出羽副看護師長は高校生から剣道をはじめ、当院入職後も、職場の協力と理解も得て練習を続け、心身の健康増進や精神鍛錬に励んでいます。今年の7月15日（月）には東京の日本武道館で開催された第16回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会2024に島根県代表の一人として出場しました。

オン・オフのバランスを上手く切替え、公私ともに今後の更なるステップアップに期待します！

ワークライフバランス支援室では、みんなが働きやすい病院となるよう職員一人ひとりのワークライフバランスの充実を応援してまいります。



写真1 大会の様子（出羽副看護師長：写真左）

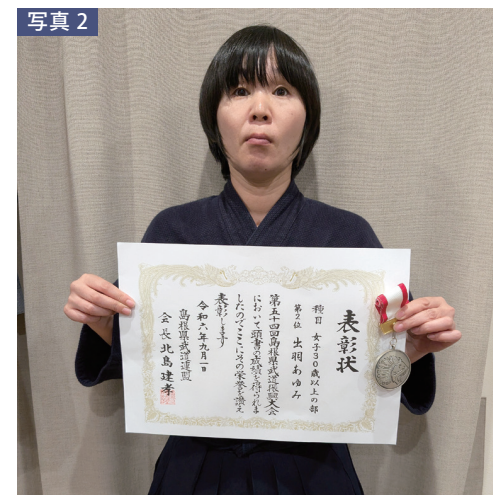


写真2 表彰状とメダル（島根県武道振興大会）

問合せ先 ワークライフバランス支援室 TEL : 0853-20-2477





島大病院ニュース 2024年10月

# ご報告



看護師特定行為研修開講式



フィジカルアセスメントの演習

## 看護師特定行為研修に取り組んでいます

集中治療部 クリティカルケア特定認定看護師

えんどう あつや  
遠藤 篤也

「特定行為に係る看護師の研修制度」は、保健師助産師看護師法に位置付けられた研修制度で、2015年10月から開始されています。

特定行為とは、医師が定めた手順書に準じて、看護師が診療の補助を行うことです。研修を修了した看護師は患者さんの状態を見極め、タイムリーな対応をすることなどが可能となります。また、医師の働き方改革においてはタスクシフト、タスクシェアも期待されています。

当院においては2020年に看護師特定行為指定研修機関として認定され「創傷管理関連」、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」、「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」、「循環動態に係る薬剤投与関連」、2023年度より「血液ガス分析関連」の5区分12行為の研修が可能となっています。現在、当院の特定行為研修修了者は23名で日々特定行為実践に向けて取り組んでいます。

今年度は4名の研修生を受け入れ、そのうち3名が他施設からの研修生です。10月からは当院においても指導医のもとで特定行為研修生が実習を行います。対象となる患者さんには事前に説明を行い、患者さんの安全を確保するとともに、指導医の助言や指導を受けて特定行為を行いますので、患者さん、地域の医療機関の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



2024年10月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2024年10月

# お知らせ

## 医療系スタートアップ企業との臨床研究を進めています

救命救急センター長 いわた よしあき  
岩下 義明

近年、多様化する医療課題の解決に取り組むスタートアップ企業が出てきています。当院救命救急センターにおいても、複数のスタートアップ企業の臨床検証に、実地使用や臨床研究の形で協力しています。

これまでに受託研究や共同研究の形で協力してきた企業として、遠隔診療の会社であるT-ICU(現 Vitaas)社 (<https://vitaas.co.jp/>)、医療機器の開発の会社である POSH WELLNESS LABORATORY 社 (<https://www.posh-wl.co.jp/>) などがあります。

T-ICU 社とは、ICUのない病院における重症患者治療の遠隔診療支援の効果について研究を行いました (Cureus. 2023;15:e41971.)。従来の重症患者に対する遠隔診療は患者さんを大病院に集約することを目的としたものが多く、高齢などの理由で転院を希望しない重症患者の地域での診療支援になっていませんでしたが、同社のシステムは地域の医療機関での診療を支援するものであり多く使用されていることを明らかにしました。POSH WELLNESS LABORATORY 社とは、カード型の呼吸数測定機器の効果測定の研究などを実施しています (Cureus. 2021;13:e18622.)。呼吸回数は多くの疾患の重症度や病院内の急変の予兆であることが知られていますが、目視での測定が必要なため、頻回には測定されていません。そこで、ネームプレートに入るカード型の呼吸数測定デバイスを開発し、これが正確に呼吸回数を測定できていることを明らかにしました。

また、mediVR 社の VR を用いたリハビリ機器 (<https://www.medivr.jp/>)、iDevice 社の新しい NPPV マスク (<https://www.med-idevice.com/>)、Curalumi 社の AI を用いた診断補助システム (<https://lp.curalumi.com/ja>) などの臨床研究も検討しています。

地方の診療現場のニーズに、新しい技術や考え方を掛け合わせて、島根県のような地方からイノベーションを生み出していきたいと考えています。大学病院と協働して新しい取り組みを実施することに興味がある方はぜひ、ご連絡ください。



問合せ先 救命救急センター TEL: 0853-20-2402



2024年10月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# お知らせ

## 家族性膵がん家系などを対象にした、膵がん早期発見のための研究 (ダイヤモンド・スタディ) を行っています

消化器内科 助教 福庭 暢彦 (ふくば のぶひろ)

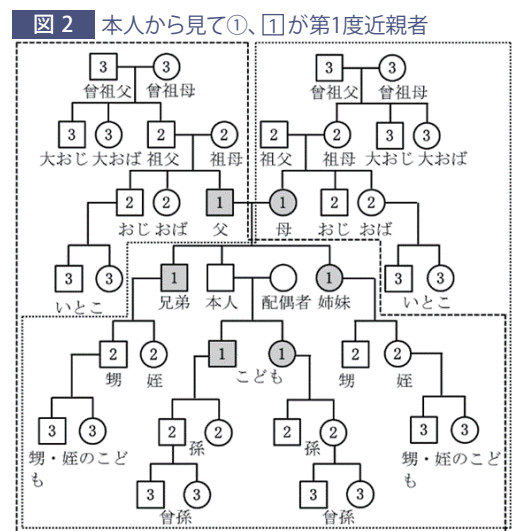
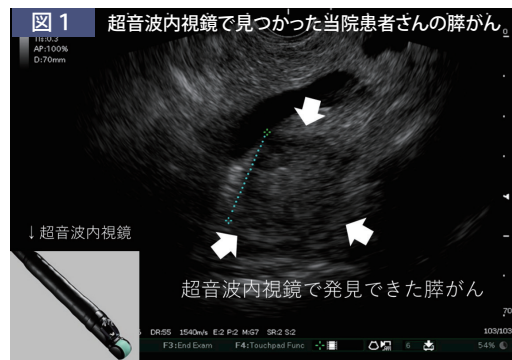
画像診断が発達し、予後不良の代表格である膵がんにおいても比較的早期で発見できる症例も増えてきました。特に超音波内視鏡は優れた空間分解能で小さな病変も描出することができ、今や膵がんの診療でなくてはならない検査法になっています。(図1)

近年、膵がんの家族歴が重要なリスク因子として注目されるようになってきました。例えば第一度近親者内(親、子供、兄弟姉妹:図2)に膵がん罹患者が2人の場合の膵がん発症リスクは6.4倍、1人では4.5倍となると報告されています。そこで当科では家族性膵がん家系に対するサーベイランス研究(ダイヤモンド・スタディ)を行っております。この研究は膵がん家系の方を対象に超音波内視鏡やMRIによる定期的な検査を行い膵がんの早期発見を目指すものです。該当する患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

当院では超音波内視鏡のみならず、CT、MRIのいずれも最新鋭の設備を備えており、さらに国内外でも多数の研究発表を行っており、これからも最先端の医療を地域に還元します。

※ダイヤモンド・スタディの詳細については、がん情報サイト「オンコロ」で紹介されています。

問合せ先 内科学講座内科学第二事務室 TEL: 0853-20-2190



がん情報サイト「オンコロ」HP <https://oncol.jp/ct/ad0110>



# ご報告



## 日御碕地区で当院のDMATが活動しました

高度外傷センター 講師 下条 芳秀 (しもじょう よしひで)

2024年7月9日(火)から11日(木)にかけて、島根県東部を中心に記録的な大雨となりました。

降り始めからの総降水量は、出雲市芦渡町で265.5ミリを観測し、この期間だけで月降水量の平年値を超え、最大12時間降水量は観測史上1位を更新しました。その大雨の影響で7月9日(火)17時ごろ県道29号(大社日御碕線)において道路が崩落し日御碕地区が孤立状態になる被害が発生しました。

7月10日(水)に島根県から当院へDMAT隊派遣要請があり、第1次隊を日御碕地区に派遣しました。同隊は県DMAT調整本部、出雲市役所、出雲保健所との合同ミーティングにて被害状況を共有した後に、医療ニーズの把握、診療所の設備確認、血液透析患者の移動手段確保を主な目的として日御碕コミュニティセンターで活動を行いました。その中で自治会代表者によって構成される日御碕地区災害対策本部会議に参加し医療ニーズを検討しました。本件においては「日御碕診療所の医療体制再構築」を活動の中心とすることを決定し、続いて7月12日(金)には第2次隊を派遣しました。前日(11日)に活動した島根県立中央病院DMATから申し送りを受けた後に日御碕診療所にて診療運営を行い、合計16名の患者対応を行い活動を終了しました。

最後に、崩落現場から日御碕診療所までの我々の誘導など被災者でありながらもDMAT活動にお力添え頂いた日御碕地区の皆様にご挨拶申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈りしています。

島根大学医学部附属病院災害医療派遣チーム(DMAT)

第1次隊: 下条芳秀(医師)、田中航(医師)、立脇陽一(看護師)、矢野博己(看護師)、石原慎之(調整員)

第2次隊: 田中航(医師)、守田美和(医師)、立脇陽一(看護師)、新谷貴大(調整員)

問合せ先 災害医療・危機管理センター (DiMCOC) TEL: 0853-88-3040





島大病院ニュース 2024年10月

# お知らせ

第49回

## 『くえびこ祭』を開催します！

くえびこ祭実行委員長 医学部3年 こんどう はつね  
近藤 初音

10月19日(土)、20日(日)の二日間で第49回目となるくえびこ祭を開催いたします。昨年度、新型コロナウイルス流行により4年ぶりの開催となったくえびこ祭は「再興～未来につながる一歩～」をテーマとし、多くの方々のご協力のもと無事に対面で開催することができました。平素からお世話になっております地域の皆様への感謝の気持ちと、医学部生との交流が深まる場として、くえびこ祭を開催できたことを改めて感謝申し上げます。

そしてポストコロナ時代2回目となる今年度のくえびこ祭は「繋～未来へ あなたへ～」をテーマに設定し、準備を進めているところです。今回のくえびこ祭のテーマには、伝統を繋ぐこと、地域との繋がり、そして多様性を尊重した他者との繋がりを大切にしたいという思いを込めました。当日は、アーティストやお笑い芸人のライブ、各部活の模擬店、地域の方々にも参加していただくグラウンドゴルフ大会など、多くの方に楽しんでいただけるような企画を計画しています。また、解剖学実習を終えた医学部2年生のレポートの展示や、医学に関連した講師をお招きして講演会を行っていただくなど、本学医学部や医学について地域の方に知ってもらう機会にしていきたいと考えています。

また、来場が難しい方にも直接「繋がり」を感じていただけるように、今年度は花火の打ち上げを企画しました。

皆様に安心してご参加いただけるように適切な準備を行いつつ、多くの人に楽しんでいただける内容を企画して参りますので是非ご参加よろしくお願いたします。



くえびこ祭HP

問合せ先 学務課学生支援担当 TEL : 0853-20-2088



2024年10月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2024年10月

# お知らせ

## 緩和ケアセンターの取り組み

緩和ケアセンター	緩和ケアセンター長	おおの さとし 大野 智
	緩和ケアチーム専任医師	あまの よしひろ 天野 芳宏
	緩和ケア病棟 看護師長	いまおか えみ 今岡 恵美
	ジェネラルマネージャー	ふじい あいこ 藤井 愛子

当院では、「がん」の診断時からだけでなく、「心不全」などさまざまな疾患に対しても診断時から治療と並行して緩和ケアを積極的に提供しています。緩和ケアセンターは、その中心的な役割を担っており、具体的な活動を実践するために3つの部門があります。

### 【緩和ケアチーム】

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、理学・作業療法士、医療ソーシャルワーカー、公認心理師等の多職種で構成されるコンサルテーションチームです。薬物療法、精神心理療法、放射線療法、神経ブロックなど症状緩和のための対策を提案するほか、在宅移行・転院の調整も行います。

### 【緩和ケア病棟】

より専門的な緩和ケアを提供し、患者さんが自分らしい日々を過ごせるよう支援します。状況に応じて一般病棟や他院への転棟・転院、在宅ケアへの移行も調整します。また、当院に受診したことがない患者さんの受け入れにも対応しています。

### 【緩和ケア外来】

退院した患者さんや他科外来通院中の患者さん・ご家族を対象に、外来での緩和ケアを提供しています。当院では、全国に先駆けて「アドバンス・ディレクティブ(事前指示書)」に関する取り組みを先駆的におこなってきました。そして、アドバンス・ディレクティブを作成するためには、もしものときのために自分が望む医療やケアについて前もって考え、ご家族や医療者などと繰り返し話し合い、共有する取り組み「アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」が重要になってきます。緩和ケアセンターは、関連する部署と連携して、アドバンス・ケア・プランニングの推進に積極的に取り組んでいくことを計画しています。

問合せ先 緩和ケアセンター TEL : 0853-88-3057



カンファレンス風景



屋上庭園



2024年10月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





## 能登半島地震に対するJRAT活動に対して 厚生労働省から感謝状をいただきました

リハビリテーション部 教授 まにわ そうきち  
馬庭 壯吉

令和6年2月に当院森脇繁登作業療法士と熊谷英岳言語聴覚士が島根JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会チーム）として金沢市内で支援にあたりました。これに対して厚生労働省老健局長の間 隆一郎様から島根JRATと当院に感謝状をいただきました（写真1・2）。JRAT本部の報告では1月から4月までの4か月間に5千人以上のリハビリテーション関連職種が支援に参加しました。JRATの活動内容ですが、平時のリハビリテー

ション医療を守り、避難所での廃用症候群を予防し、異なった生活環境での機能低下に対する支援を行います。被災地では、DMAT、JMAT（日本医師会災害医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療チーム）、日本赤十字社の救護班などと連携して活動します。

島根JRATでは、南海トラフ地震などを想定し組織の整備にあたっています。島根県との協定締結を目指しながら、県の療法士会などを通して安定した人材確保を進めています。医療機関の皆様にはご協力とご支援をお願い申し上げます。

写真1

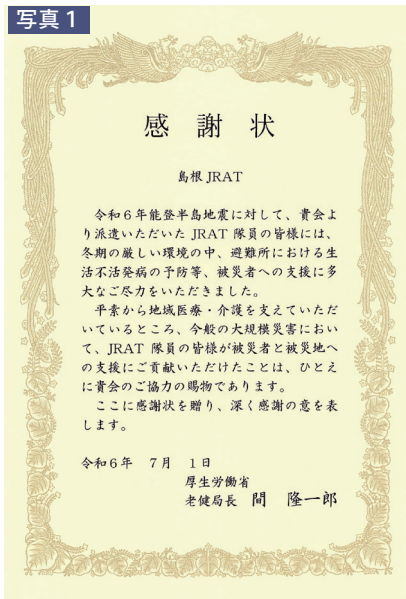
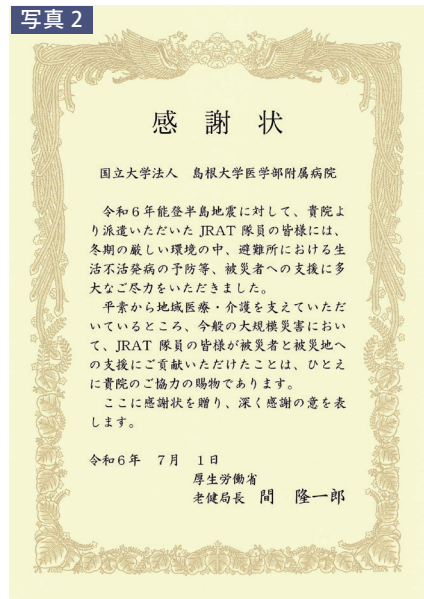


写真2



問合せ先 リハビリテーション科 TEL : 0853-88-3047

